

令和6年度 学校だより

あくのうら

3月

ホームページアドレス www.nagasaki-city.ed.jp/akunoura-e/

令和7年2月28日

長崎市立飽浦小学校

発行 校長 松尾伸章



2月のお気に入りの写真です。とても寒い2月でした。2月4日、5日、6日と3日連続で雪が積もり、飽浦小学校の玄関先には、子供たちが作

った雪だるまが並びました。子供たちが安全に登校してくてくれるか心配しましたが、逆に子供たちはいつも以上に元気に登校し、朝の準備が終わるとすぐに玄関前に出て来て雪遊びを楽しんでいました。やはり昔も今も変わらず「子供は風の子」なのでしょう。寒い2月でしたが、子供たちが作ったこの雪だるまを見ると心はあったかくなります。

「山笑う ことに雑木の 明るさに ～安立公彦～」

中国の古典を引用しての歌です。中国では、「春山は笑う、夏山は滴るよう、秋山は粧うよう、冬山は眠るよう」と表現するそうです。学校の目の前にある立神山も、どこことなく明るくなってきました。今週から気温も上がってきて、春の始まりを強く感じます。

ゆっくりとそれでも積極的に春を迎えるこの時期を、忙しい中にも、「子供たちのために何ができるか。どのように実現していくか。」全職員で考え、最後まで全力で教育活動に取り組んでいきます。

明日から3月です。令和6年度のゴールは目の前です。子供たちが、最後まで生活のリズムを乱すことのないよう、家庭の方でもご協力をお願いします。

卒業式に向けて

学校では、この一年間リーダーとして頑張ってくれた6年生に感謝の気持ちを伝えようと、卒業をお祝いする掲示や歌、言葉などの準備を始めました。3月6日（木）の「6年生を送る会」では、それぞれの学年が出し物を通して、6年生に感謝とお祝いの気持ちを伝えます。



もちろん、6年生も最高のゴールを迎えようと頑張っています。

この一年間、飽浦小のリーダーとして様々な活躍を見せてくれた子供たちです。毎朝の玄関掃除ボランティアも一年間続けました。先日、2月14日には、6年間学んだ学校に感謝して、寒い中にも冷たい水を使って、ピロティをブラシで一生懸命磨き上げてくれていました。最後まで立派な姿を見せてくれています。



ボランティアも一年間続けました。先日、2月14日には、6年間学んだ学校に感謝して、寒い中にも冷たい水を使って、ピロティをブラシで一生懸命磨き上げてくれていました。最後まで

3月18日（火）は、全児童が卒業証書授与式に出席し、みんなで6年生の卒業をお祝いします。お互いの気持ちがうまく伝わるように指導していきます。



【3月の行事予定】

- 3日（月）【午前中 5 時間給食後下校】 安全の日
4日（火）【午前中 5 時間給食後下校】
5日（水）【午前中 5 時間給食後下校】
6日（木）【午前中 5 時間給食後下校】 6 年生を送る会
7日（金） 卒業式合同練習（3 校時） 代表委員会・ボランティア活動
10日（月） ピースデイ 卒業式合同練習（3・4校時）
※体育館バスケットゴール取替工事（午後～11日）
12日（水） 心の時間
13日（木） 卒業式予行練習（2・3校時）
14日（金） あくりゅうクラブ
16日（日） （家庭の日）
17日（月） 卒業式合同練習（3 校時）
卒業式準備（5 校時；1～5年 6 校時；4・5年）
※6 年生は、昼休み終了後下校
18日（火） 卒業証書授与式
19日（水） チャレンジタイム（算数検定）
20日（木） <春分の日>
24日（月） 修了式 離任式

※25日（火）～春休み 4月7日（月）始業式 4月9日（水）入学式

【令和7年度学級編制予定（お知らせ）】

「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」により、制度上、隣接する学年の児童数（特別支援学級児童以外）が合計16名以下（1・2年生の場合は合計8名以下）の場合は、2学年で1クラスの複式学級となるように決まっています。

令和7年度の本校は、この制度により、新2・3年生と新4・5年生の2クラスが、複式学級になる見込みです。現在、本校の令和7年度予定児童数（特別支援学級児童数を含む）は、1年6名、2年10名、3年6名、4年4名、5年14名、6年11名の計51名です。さらに、3名の転出の可能性もあるようです。次年度始業式までに、関係学年に転入生が来ない限り、新2・3年生と新4・5年生は複式となります。もしも、新4・5年生に1名でも転入があれば、新3・4年生の1クラスのみが複式学級となります。

最終決定は、4月7日になります。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いします。

《校長室の窓から》

「子供が変わった。」とは、大人の視点からの言葉だろうと思います。確かに私が子供の頃に比べると生活環境は変わりました。そうした変化をもっとも受けるのは子供ですから、子供が変わったように見えるのは仕方ありません。私は「子供の本質は変わっていない。」と信じています。しかし、多様化していると感じているのも事実です。

その多様化した現状にどう対応するのかを考えると、「大人の視点から」を変えていかなくてはと気付くようになりました。

「スーツケースから風呂敷へ」という言葉があります。スーツケースは型と大きさが決まっていますので、それに合わない型や大きさを受け入れることができません。しかし、風呂敷は多様な型や大きさに応じてその包み方を変えることができます。長い棒であっても、いびつな形であってもです。これが「大人の視点から」を変える方法です。子供は、大人の用意した型や大きさに収まらないものです。風呂敷のように、その子にあった包み方ができる大人でありたい。願いばかりですが、そう考えているところです。